

解答編

英語

解答編

I

解答

1. (a)―(4) (b)―(1) (c)―(3) (d)―(1) (e)―(2)
(f)―(1)

2. (あ)―(2) (い)―(3) (う)―(3) (え)―(1) (お)―(1)
3―2 4. (X)―(1) (Y)―(3)
5. (ア)―(2) (イ)―(2) (ウ)―(3)
6―(2), (8)

◆全 訳◆

《非母国語を利用する長所》

世界はますます英語で仕事をするようになってきている。多国籍企業（スイスや日本のような場所に本社がある会社でも）は英語を社内言語にしつつある。そして欧州連合や国際連合といった国際的組織は、その新たな国際的デフォルト言語で仕事をする割合がいつそう増えている。オフィスの中は英語の世界であり、他の言語はいずれもその英語の世界の中で生き残っているにすぎない。

これは英語を母国語として話す人々にとって有利なのだろうか。外国語で仕事をするのは確かに厳しい。滅多に使われない語彙を思い出したり正しく文を作り出したりする労力を要さない場合には、よどみなく議論するとか、微妙な主張をすることがより容易になる。非母国語話者は、片手だけではなく、おそらく頭脳の一部も背後に縛られているのである。マイケル＝スカピンカーは、ファイナンシャルタイムズの最近のコラムの中で、英語を母国語とする話者がそうでない話者とうまく話をする技術を習得することは重要であると述べている。

しかしスカピンカー氏が述べるように、非母国語話者であることにも長所はあるのだ。これらはより微妙ではあるが、決して小さくはない。非母国語話者にとって自身の聡明さを誇示するというのは容易にできることで

はないかもしれない。聡明さを高く評価してもらうのは有利になりえるし、これは世界中ですらすらと話せる人々の幸運である。しかし、しばしば逆のことが言える。あなたが実際ほどには幾分か聡明ではないと思われていることが、交渉の中で驚きの要素を与え、有利になることもあるのだ。そして別の言語だけでなく、別の文化の出身であるということにより、人々は残りの母国語話者により共有されている弱点と思考習慣に気づくことができ、会議の中で彼らより先にうまく進んでいくことができる。「ここで物事の仕組みがどうなっているのかよくわからないのですが、…だと思っていました」というような言葉であなたの主張を始めることは時には効果がある可能性があるのだ。

非母国語で仕事をする人々は、他の利益もまた挙げている。何を言いたいか説明を求めることは貴重な時間を稼ぐのを助け、あるいは気を散らす便利な方法になることがある、と『エコノミスト』誌に勤めているあるロシア人は述べる。ゆっくり話すことは非母国語話者が適切な言葉を選ぶことを可能にしてくれる。それは興奮して感情的になっているときに、たいていの人々がしないことである。話すことができる速度以上の速さで思考することはその逆よりも利点が多い。

非常に興味深いのは、話すことから思考へとつながるフィードバックの循環があるかもしれないことである。一部の研究により、外国語での意思決定は時には実際により優れていることがわかった。シカゴ大学の研究者たちは被験者に引っかけのあるテストをさせた。簡単そうに見える「正」答が実は誤っているのである。第二言語でそのテストを受けた人々はその引っかけを回避し正答を選ぶ確率がより高かった。言い換えると、とてもなめらかな素早い思考過程には不利な点があり、余計な注意深さというのには独自の特別な長所があるのだ。同じ研究者たちのひとは、例えばより多くの人命を救うためにあなた自身の手でだれかを殺害することが認められるかどうかといった道徳的な意思決定においても、人々は外国語でテストされると、より実際的でより感情を伴わない思考をすることを発見した。デンマークで仕事に就いているあるアメリカ人は、給与の交渉はデンマーク語であることを主張したと言っている。英語で賃上げを求めたならば、彼には気まずいものとなったであろう。

これはすべて第一言語が何であろうと当てはまる。しかし現代の世界に

おいては、自身の言語で仕事をするのは特に英語の一言語使用者たちであり、同じく英語で仕事をしている、英語が母国語でない多言語使用者がそれに加わるのである。それらの非母国語話者は、再び英語の会話に加わる前にいったん離れて個人的に自身の言語を話すことが常にできるのである。ある言語から別の言語へと移ることは、他者には物事が違って見えている可能性があることを絶えず想起させてくれる、と欧州委員会のオランダ人のある役人は述べる。(おそらくバイリンガルの子供たちは世界のだれがどの言語を話すのかを絶えず観察しているために、他の人たちが何を考えているかを推測することがより得意であることが、ある研究でわかった。) 実際に外国語で仕事をしている人々はこれらの長所と短所について話をしたがる。不幸なことに、一言語使用者には決してそのような機会はない。第二言語で苦闘する人々は気の毒ではあるが、逃しているものを知る由もない多くのそのような一言語使用者のこともまた考えてみよう。

◀ 解 説 ▶

1. (a) bodies 「①体, ②団体」本文中では②の意味なので, (4) organizations 「組織, 団体」が最も近い。

(b) subtle 「微妙な, はっきりしない」(1) delicate 「繊細な, 扱いにくい, 微妙な」が最も近い。

(c) trivial 「取るに足らない」(3) not very important 「それほど重要ではない」が最も近い。

(d) buy (time) 「(時間)を稼ぐ」(1) gain (time) 「(時間)を稼ぐ, (時間)を得る」が最も近い。

(e) subjects 「①科目, ②主語, ③被験者, ④臣民」本文では③の意味なので, (2) participants 「参加者, 被験者」が最も近い。

(f) monitoring 「監視している」(1) checking 「確かめている, 検査している」が最も近い。

2. (あ) have one hand tied behind *one's* back 「片手を後ろで縛られている, 大変な制約を受けている」

(い) there is a lot to be said for ~ 「~には利点が多い」

(う) turn out to be 「結局~だとわかる」

(え) go away 「去る, 離れる」

(お) be better at ~ 「~がより得意である」

3. 挿入文は「そして別の言語だけでなく、別の文化の出身であるということにより、人々は残りの母国語話者により共有されている弱点と思考習慣に気づくことができ、会議の中で彼らより先にうまく進んでいくことができる」であり、文化的相違を肯定的にとらえている。また挿入文の文頭の And は順接を示すので、直前の文もまた肯定的情報を含むことになる。2の直前では非母国語話者の長所が書かれており、直後に会議中のふるまいについて述べられていることからこの位置に入るのが適切である。

4. monoglot「一言語使用者」という意味なので、English monoglots とは「英語だけを話す人」である。事実上、母国語が英語であるということになる。polyglot「多言語使用者」という意味であり、English monoglots との対比より、non-native polyglots とは「英語が母国語ではない多言語使用者」である。したがって、English monoglots とは、(1)「英語が話すことのできる唯一の言語である人々」、non-native polyglots とは、(3)「英語を話すことはできるが第一言語としてではない人々」がそれぞれ正しい。その他の選択肢は以下の通り。

(2)「英語を話せない人々」(4)「いくつかの言語を話すことができるが英語を使えない人々」(5)「第二言語が英語ではない人々」(6)「母国語としての英語だけでなく一つ以上の他の言語を話す人々」(7)「一つの言語しか話さないが、それが英語ではない人々」

5. [ア] 第3段第5文 (But it is ...) 以降で、非母国語で仕事をすることの利点が述べられている。空所の直後に too があることに留意し、文脈より(2) benefits「利益」を選ぶ。

[イ] 第5段第3文 (Researchers at the ...) 以降のシカゴ大学の実験では第一言語より第二言語で問題を解く方が正答率が高かったことが示されているので、(2) a foreign「外国の」が正しい。

[ウ] 最終段第4・5文 (Jumping from language ...) では、母国語以外にも利用する多言語使用者が多面的視点をもつことができるという長所が示されている。したがって一言語使用者は一元的にしか物事をとらえることができないということになるので、(3) missing「失っている、逃している、欠いている」が正しい。

6. (1)「デンマークではアメリカ出身の従業員はデンマーク生まれの仲間

よりも給料の増加を勝ち取る可能性が高い」記述にない。

(2)「英語を母国語としない話者が英語で話さねばならないとき、自らの優秀さを証明することは困難であることがある」第3段第3文(Non-native speakers may …)より内容に一致。

(3)「欧州連合や国際連合といった主要な国際的な団体は英語を世界の公用語にした」第1段に組織内の使用が増えたとあるが、公用語については記述にない。

(4)「英語を母国語とする話者は、第二言語として英語を話さざるをえない人々を気の毒に思う」記述にない。

(5)「英語を母国語としない話者は、道徳的に物議をかもす問題を英語で論じるとき、英語を母国語とする話者よりも倫理的な問題を無視する可能性が高い」母国語以外で論じる方が冷静な判断が下せるという第5段の記述に反する。

(6)「英語を流ちょうに話す人々は通常過小評価される」記述にない。

(7)「第二言語として英語を話す人々は、英語を母国語として話さない人々よりも多様な視点を有する」記述にない。

(8)「英語を第二言語として使用することは、英語の意味を考えるときに、英語を母国語とする話者よりもしばしば話者が注意深くなるようにする」第5段第3～5文(Researchers at the …)より内容に一致。

英語

(60 分)

[I] 次の英文を読んで、1～6の問いに答えなさい。

More and more of the world is working in English. Multinational companies (even those based in places such as Switzerland or Japan) are making if their corporate language. And international bodies like the European Union and the United Nations are doing an ever-greater share of business in the world's new default language. (At the office,) it's English's world, and every other language is just living in it.

Is this to the advantage of the native speaker of English? [Working in a foreign language] is certainly hard. 1 It is easier [to argue fluently] or [to make a subtle point when not trying to recall rarely used vocabulary or construct sentences correctly. Non-native speakers have not just one hand, but perhaps a bit of their brains, tied (behind) their backs. A recent column by Michael Skapinker in the *Financial Times* says [that it's important for native English speakers to learn the skills of talking with non-natives successfully.]

But, (as Mr. Skapinker notes,) there are advantages to being a non-native, too. These are subtler — but far from trivial. Non-native speakers may not be able to show off their brilliance easily. It can be an advantage to have your cleverness highly rated, and this is the luck of verbally fluent people around the world. But it is quite often the other way round: it can also be an advantage to be thought a

little less clever than you really are, giving the element of surprise in a negotiation. 2 It can (sometimes) be effective to begin to make your point by saying something like “I’m not sure how things work here, but I was just thinking...”]

People working in a language not their own report other [ア], too. [Asking for an explanation of someone's meaning] can help buy valuable time or be a useful *distraction, says a Russian working at *The Economist*. [Speaking slowly]

allows a non-native to choose just the right word — something most people don't do when they are excited and emotional 3 There is a lot to be said (for) thinking faster than you can speak, rather than the other way around.

(Most interestingly,) there may be a feedback loop from speech back into thought. Some studies have found [that (sometimes) decision-making in [a foreign] language is actually better. Researchers at the University of Chicago gave subjects a test with certain traps — easy-looking “right” answers that turned (e) out to be wrong. Those taking it in a second language were more likely to avoid the trap and choose the right answer. Very smooth, quick thinking, (in other words,) has its disadvantages, and extra-carefulness has its own special merits. 4 One of the same researchers found [that even in moral decision-

making — such as whether it would be acceptable to kill someone with your own hands to save a larger number of lives] — people thought in a more practical, less emotional way (when tested in a foreign language.) An American working in Denmark says [he insisted on having salary negotiations in Danish] — [asking for more money in English] would have been embarrassing to him. 5

All this applies (regardless of the first language.) But (in the modern world) it is English monoglots in particular who work in their own language, joined by non-native polyglots working in English too. Those non-native speakers can always go (away) and speak their languages privately (before rejoining the English conversation.) [Jumping from language to language] is a constant reminder of [how others might see things differently] notes a Dutch official at the European Commission. (One study found [that bilingual children were better (at) guessing [what was in other people's heads] (perhaps because they were constantly monitoring who in their world spoke [what language]) (Indeed,) those working in foreign languages are keen to talk about these advantages and

disadvantages. (Unfortunately,) monoglots will never have that chance. ~~Pity~~
 those struggling in a second language — but also ~~spare a thought~~ for those many
 人々 ^{are pity} who have no way of knowing what they are ^{命文 考してやり!} [ウ]. ^{missing}

*distraction 気を散らすもの

1. 下線部 (a) ~ (f) の単語の意味に最も近いものを、それぞれ(1)~(4)より
 選び、その番号をマークしなさい。

(a) bodies

(1) cases

(2) companies

(3) figures

(4) organizations

(b) subtle

(1) delicate

(2) logically clear

(3) not very significant

(4) very critical

(c) trivial

(1) disadvantageous

(2) not obvious

(3) not very important

(4) out of date

(d) buy

(1) gain

(2) multiply

(3) pay

(4) purchase

(e) subjects

(1) classes

(2) participants

(3) students

(4) topics

(f) monitoring

(1) checking

(2) displaying

(3) interpreting

(4) respecting

2. 文中の (あ) ~ (お) に入れるのに最も適切な語をそれぞれ(1)~(4)から選
 び、その番号をマークしなさい。

(あ) (1) against

(2) behind

(3) beneath

(4) upon

(い) (1) around

(2) before

(3) for

(4) without

(う) (1) off

(2) on

(3) out

(4) over

(え) (1) away

(2) past

(3) through

(4) under

(お) (1) at

(2) for

(3) to

(4) with

3. 以下の文が入るのに最も適切な場所を，文中の空所 ～ から選び，その記号をマークしなさい。 (2)

And coming from another culture — not just another language — allows people to notice weak points and habits of thinking shared by the rest of the natives, and to steer past them in a meeting.

4. 下線部 (X) の English monoglots および下線部 (Y) の non-native polyglots は，文中ではそれぞれどのような人を意味するか，以下の(1)～(7)から最も正確に表現しているものを選び，その番号をマークしなさい。 (3)

- (1) those for whom English is the only language they can speak
- (2) those who cannot speak English
- (3) those who can speak English but not as their first language
- (4) those who can speak several languages but cannot use English
- (5) those whose second language is non-English
- (6) those who speak English as their native tongue, as well as one or more other languages
- (7) those who speak only one language and it is not English

5. 空欄 [ア] ～ [ウ] に入るのに最も適切な語を，以下の(1)～(5)から選び，その番号をマークしなさい。

[ア]

- | | | |
|--------------|-----------------|------------|
| (1) accounts | (2) benefits | (3) issues |
| (4) problems | (5) reflections | |

[イ]

- | | | |
|-------------------|---------------|--------------|
| (1) a familiar | (2) a foreign | (3) a native |
| (4) a non-English | (5) English | |

[ウ]

- | | | |
|--------------|---------------|-------------|
| (1) avoiding | (2) finding | (3) missing |
| (4) noticing | (5) rejecting | |

6. 本文の内容に一致しているものを次の(1)~(8)から2つ選び、その番号をマークしなさい。3つ以上マークした場合は無効となるので、注意すること。

- (1) In Denmark, employees from the United States are more likely to win a salary increase than native Danish colleagues.
- (2) It can be difficult for non-native English speakers to prove their excellence when they have to do so in English.
- (3) Major international bodies, such as the European Union and the United Nations, have made English the world's official language.
- (4) Native English speakers pity those who are forced to speak English as a second language.
- (5) Non-native English speakers are more likely to ignore ethical problems than native speakers when they discuss morally charged issues in English.
- (6) Those who can speak English fluently are usually underestimated.
- (7) Those who speak English as a second language have more diverse points of view than those who don't speak English as a mother tongue.
- (8) Using English as a second language often encourages a speaker to be more careful in considering English meaning than native English speakers are.